

防災気象

豆知識 (5)

藤原の効果

10月の下旬に大型の台風27号と28号が同時期に日本近海に接近し、本市では台風27号と停滞する秋雨前線の影響で「大雨・洪水警報」が発表されるなど、大荒れの天気となりました。

この時、テレビ等で「藤原の効果」という言葉を初めて耳にした方も多いと思います。藤原の効果とは、2つ以上の熱帯低気圧（以下、「台風」という）が接近した場合に、それらが干渉して通常と異なる進路をとる現象のことです。1992年に当時の中央気象台所長だった藤原咲平さんが、このような台風の相互作用の存在を提唱したため、「藤原の効果」と呼ばれるようになりました。

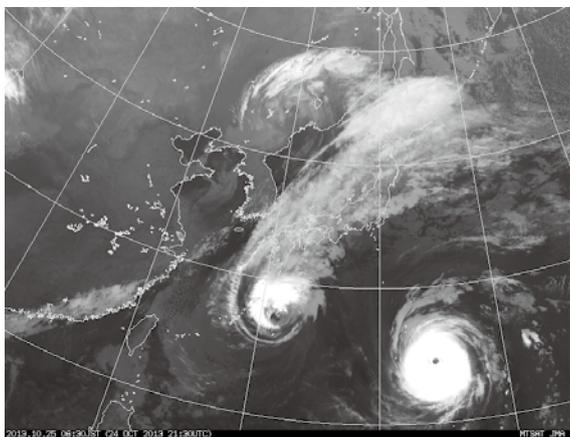
藤原の効果が見られるようになる2つ以上の台風の距離は、その台風のおおむね1千キロ以内とされています。

藤原の効果は大きく6つに分類されています。

- ・ **相寄り型** 弱い台風が、強い台風に吸収される場合
 - ・ **時間待ち型** 片方の台風が北上し、その台風が過ぎ去った後にもう片方が動き出す場合
 - ・ **追従型** 片方の台風が移動した後ろを、もう片方の台風が追いかけていく場合
 - ・ **指向型** 片方の台風が、もう片方の台風の周りをぐるぐる回るように動く場合
 - ・ **同行型** 両方の台風が並んで移動していく場合
 - ・ **離反型** 東の台風が加速して北東へ移動し、西側の台風は減速しながら西へ移動する場合
- このように、同時期に2つ以上の台風が発生すると、台風が迷走する場合があります。

台風が接近していなくても、前線の影響等で雨が長時間降り続けると、土砂災害や河川の氾濫等の危険性が高まります。「これくらいの雨なら大丈夫」と自分で判断せず、市や気象台から情報等が発表されたら、早めの避難を心掛けてください。

※台風とは、熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼び、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速が毎秒17メートル（34ノット・風力8）以上のもの。



提供：気象庁（気象衛星図）

「とくしま情報伝達訓練」のお知らせ

南海トラフ巨大地震の発生を想定した情報伝達訓練を次の日程で行います。

携帯電話に緊急速報メールが一斉に配信されますので、それを合図に机の下に隠れるなどの身を守る退避行動を1分程度とっていただく、自主参加型の訓練です。

大地震が発生した時には、まずは自分の身は自分で守る「自助」の行動が大切になります。事前に家族や職場などで大地震が発生した時に何をすべきかを話し合い、この訓練で実践してください。

日時 12月20日(金) 午後2時

注意事項

- ・ 着信音は、実際の緊急地震速報のブザー音ではありません。
 - ・ マナーモードに設定していても着信音が鳴る場合がありますので、鳴ってはいけない場所では必ず電源をお切りください。
 - ・ 車を運転中は訓練に参加しないでください。無理に停車したり、携帯電話の操作は行わないでください。
- 問い合わせは 徳島県危機管理部 南海地震防災課（☎088-621-1228）または市防災対策課（☎22-9191）へ

